

【準決勝】

日体大柏 vs 千葉明德

日体大柏は1-4-4-2。幅と深さをとり、ビルドアップからサイドを起点にゴールに迫りたい。対する千葉明德は1-4-3-1-2の陣形。前線3枚のプレスでサイドに誘導し、カウンターからゴールに迫りたい。立ち上がり主導権を握ったのは日体大柏。GK①原田を含めたビルドアップから、間延びした中盤のスペースを使い溜めを作り、攻撃に厚みをつける。対する千葉明德は押し込まれながらもアタッキングサードでは集中した守備をみせ決定機を作らせない。両チームセットプレーの流れから得点につなげるも同点のまま前半終了。

後半、千葉明德は交代により選手を入れ替えながら活性化を図り、強度を高め圧力をかける。日体大柏は後方からのロングフィードで前がかりになる相手の背後を狙う回数が増える。42分、日体大柏はDF⑤岡田の仕掛けから中へ折り返したボールにFW⑨吉村がニアで合わせて勝ち越し。対する千葉明德はFW⑪工藤の突破の流れからオウンゴールを誘発。終了間際に追いつき、延長戦へ持ち込む。

運動量を落とさない千葉明德は高い位置でボールを奪う回数を徐々に増やし、延前8分、⑪が左サイドでドリブル突破からチャンスメイクすると、MF⑥菅野が右足を振り抜き逆転弾。日体大柏の猛攻に耐えつつ千葉明德は延長後半にも追加点をあげ、そのまま試合終了。最後まで粘り強く戦った千葉明德が昨年度の王者を破り、初の関東大会出場を決めた。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人

習志野 vs 八千代

習志野は1-4-1-3-2システム、八千代は1-4-4-2システムのフォーメーションでキックオフ。習志野は縦へ素早い攻撃とロングスローを中心にゴールを目指していくが、八千代のコンパクトに保った守備陣形を崩すことができない。八千代はFW⑨田中、FW⑫須堯のコンビネーションを中心に効果的に中盤の選手が関わりバイタルエリアの侵入を目指す。テンポよくボールを回しリズムを掴んだ八千代が決定機を作り出すが、習志野もゴール前での高い集中力と素早い切り替えで対応した。お互いに相手に自由にサッカーをさせず前半はスコアレスで終了する。

後半に入り、習志野はセットプレーからチャンスメイクをするが八千代のセンターバックが粘り強く対応し得点を許さない。対する八千代もGK①徳田のフィードから起点を作り、ドリブルも織り交ぜ、中央突破を図ろうとする。しかし、習志野の素早い切り替えとDFラインをなかなか崩すことが出来ない。ゲームが動いたのは後半残り3分、八千代は⑨が裏へ抜け出し、エリア内で倒されPK獲得。このPKをDF⑧吾妻がキッチリと決めて先制点を獲得。この1点を守りきり無失点で勝利を収めた八千代が決勝戦へと駒を進めた。

千葉県立泉高等学校 三神 弘輔

【決勝】

千葉明德 vs 八千代

千葉明德 1-5-3-2、八千代 1-4-2-3-1 のシステムでキックオフする。序盤から八千代はFW⑨田中へのロングボールを使った攻撃とDFラインからのビルドアップでサイドのスペースをうまく使い攻撃を展開する。特にMF⑩鶴岡がライン間でボールを受けた時や左サイドのMF⑦西村のスピードに乗ったドリブルからチャンスを多く作り出す。これに対し千葉明德は5バックでスペースを消して対応しようとするが全体の距離感をうまく保てずスペースを使われてしまうシーンが多くなる。それでもGK①山下を中心としたゴール前での粘り強い守備でゴールを割らせない。立ち上がりから八千代がペースを握り、千葉明德が粘り強く対応する展開が続く中、八千代が先制する。10分に右サイドのCKをファーで折り返し、中でフリーとなった⑧吾妻が合わせてゴールを奪った。先制を許した千葉明德はシステムを1-4-2-3-1に変更し、中盤でボールを奪ってからの攻撃やFW⑬岡本にボールが収まってからのサイドを使った攻撃からゴール前でのシーンを増やしていくが八千代守備陣が粘り強く対応する。千葉明德が徐々にゴールに迫るシーンを増やしていくが得点には至らず前半が終了する。

後半から千葉明德はFW⑭白を投入し1-4-4-2に変更する。前線から積極的にプレスをかけボールを奪いに行き、奪ったボールはシンプルに2トップへボールを供給してゴールを目指す。勢いのある後半の入り方をした千葉明德は43分、中盤で得たFKをゴール前に送り、2ndボールに反応して打った④徳永のシュートのディフレクションを⑭が押し込み同点に追いついた。両チームとも2点目を狙う展開の中、千葉明德は⑭をターゲットにした攻撃と中盤で奪ってからのカウンターでゴールに迫る。対する八千代は両サイドを広く使った攻撃とサイドを使うことによってできたギャップでボールを引き出してチャンスを見出そうし、球際での攻防が激しくなる。一進一退の展開が続くが、両チームとも追加点を奪うことはできず延長戦に突入する。

延長は両チームともロングボールを前線に供給し、2ndボールを回収する攻防が多くなり、オープンな展開となる。延長前半6分、八千代はMF⑯鈴木が右サイドを個人技で打開し、PA内にスルーパスを出すと、そのパスに反応した⑦がGKと接触しながらもゴールへ流し込み追加点を奪う。その後も両チームとも最後まで強度を落とさず、ハイレベルな戦いが展開されるがスコアは動かず八千代が2-1で勝利し、令和5年度関東高等学校体育大会サッカーの部優勝を飾った。